

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者様と、ご家族様、地域の方々とのふれあいを大切にします。という理念を実施している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日出勤時、ひとりひとりグループホームの理念を読みあげる事により、実施できるよう努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入り口正面に掲示し、説明している。 又、仮契約時、説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご利用者様の近所の方々には気軽に面会に来て下さいと声をかけているが、施設の隣近所の方とは挨拶は交わすが、気軽に立ち寄ってもらえるような付き合いはない。	○ 施設の近所の方々にも気軽に立ち寄って頂けるよう努めていきたい
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	チャリティーオークションや保育園の運動会など、出来る限り地元の人々と交流する事に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今の段階では、話し合いも出来ていない。	○	今後、何か役立つ事がないか話し合い取り組んでいきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の終了後に、職員で話し合い改善できる事は改善し、質の確保・向上に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、日々の活動内容などを紹介し、ご利用者様やご家族の要望などがあればサービスの向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には、行き来する機会がない。	○	今後、運営推進会議以外でも、気軽に立ち寄って頂き、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会はあるが、必要な人に活用できるよう関係機関へ紹介するまでの支援はしている。	○	必要な人にはそれらを活用し、支援していけるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による言葉使いなど虐待になっていないかなど、細心の注意をはらい、虐待の徹底防止に努めている。	○	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持っていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、金銭面については事務局、その他については責任者がご家族様への不安・疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し、ご利用様が意見、不満、苦情を気軽に伝えられるようにしている。万が一苦情があった時は管理者へ速やかに報告している。	○ 外部者へも苦情内容を伝えどのように改善しているか表せる機会を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、請求書と一緒にご利用様の暮らしぶりを記載した手紙を一緒に添えている。又、面会時にも日頃の様子を伝え、状態が変化した時は電話で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、何か不満、苦情、疑問点などは無いか尋ねている。	○ 面会時以外でも、インターネットなどで意見・苦情・疑問点を出せるよう工夫してみてもどうか。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	相談表の用紙に意見を記載し、運営者・管理者との話し合いが出来る場を持ち、速やかに対応している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化によって、勤務時間及び勤務日などを変更し、調整している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの管理者や、職員による支援を受けられるよう異動は行わないようにしている。職員の離職については、最小限抑える努力をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度勉強会を行い、職員の段階に応じ参加している。施設外での研修情報は、回覧され誰でも参加する事が出来る。	○	施設外での研修に参加したい時、勤務によって行けない事もあるので、もっと積極的に参加出来るよう取組んでいきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が地域の同業者と交流する機会が無い。	○	交流する機会をつくり、ネットワークづくりや相互訪問などの活動を行えるよう取組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間は、職員の心身を休めるよう外に出たりスタッフルームで過ごして、ストレスをためないようにしている。	○	小人数の職場の為、連休を取りにくく旅行に行きたくても行けないとの声もある。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員個々に向上心を持って働けるよう日々声かけをしている。	○	職員より、日々の努力や実績、勤務状況を把握して頂き、給与・休暇に配慮して頂きたいという声がある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの相談はケアマネージャーが行い、入居後についての不安な事・求めている事などを本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族などが困っている事など相談から利用に至るまでケアマネージャーが行い、入居後はご家族様からよく聴く機会をつくり受け止める努力をしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話をよく聴き、要望をもとに必要としている支援を見極め、サービス利用の調整を行うようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上でサービスを利用しても、サービスをいきなり開始している事が多く、本人の戸惑いが感じうける事が多い。	○ 地域密着型サービスの特徴を活かして本人が職員や他のご利用者様とのサービスの場に徐々に馴染みをつくり、本人が納得した上でサービスを利用できるようにしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に職員は、利用者が今何をしたいのか、話を傾聴するよう心がけ、喜怒哀楽を友に出来るよう築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	支援する中で、ご家族様にも協力して頂きたい事などを常に相談し、本人の生活を共に支援しているよう築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員の関わりによって、本人と家族との距離が離れてしまっている状況がないかの確認を行いながら、本人と家族の支援を実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ご家族が施設への入居に対し、身内の方以外には知らされていない事も多い。	○	ご家族様にも施設への入居について理解して頂き、ご本人様が親しんできた方々と付き合いが出来るよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格を職員が理解し、利用者同士の関係を支えられるような支援をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了すると継続的な関係はない。	○	ご利用者様やご家族様が契約後、孤立していないか確認する必要があるのではないか。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様が入居されてからの暮らし方の希望は『家へ帰りたい』と言われる方が多い。	○ 家へ帰れないのが現状であり、ご本人様にとって施設内での生活を、その方らしく暮らして頂くにはどう支援していったら良いかを取組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様からは話を傾聴しご家族様からは面会時プライバシーに配慮しつつ生活歴や馴染みの暮らし方を把握していくよう心がけている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を職員全員が把握し、ご本人様の出来る事を発見していくよう努めている。	○ ご本人様の出来る事を発見後、職員全員に申し送りご本人様に行って頂くようにしている。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、その後ケアプラン作成をしている。	○ ご家族様にもケアカンファレンスに参加して頂き、もっと多くの意見を出し合っていけるよう取組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	4ヶ月に一度は定期的に見直しをしているが、ご本人様の変化によって現状に即した計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、入居者一人ひとりの情報記録を共有し、ケアの実践についてもサービス確認表でチェックの上、2週間に一度評価をし介護計画の見直しに役立っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様やご家族様の状況や要望などに応じ、出来る限り馴染みの職員が継続的に支援するよう心がけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練など、消防署の協力を得て入居者の方々にも参加して頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人様の意向の必要性に応じて、他のサービスを利用するための支援はしていない。	○	今後、ご本人様の意向がある時は他のサービスを利用していただけるよう支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなど、地域包括支援センターと協働していない。	○	地域包括支援センターと連携を図りながら個別支援をしていただけるようにしていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む際に、ご利用者様の状況・ケアについての情報を詳しく伝え、住み替えによるダメージを防ぐ事に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していく為に、全職員が常に具体的に確認している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々変化している状況に対し、ご利用者様の表情や全身の動きで、思いや希望をキャッチ出来るようにし支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に職員は業務優先ではなく、ご利用者様に合わせ一人ひとりの生活のリズムや本人がしたいと思っている事を支援していくようにしている。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者様の好みに合わせ身だしなみやオシャレが出来るように支援している。理容や美容は本人の希望で行っている。	○	施設内の理容・美容ではなく、外へ行きシャンプーやパーマをかけたいと話されるご利用者様のご要望も取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の決まりで、金銭については事務局で管理する事をご本人とご家族様には了解を得ている。ご利用者様が不安を感じた時は事務局で対応し、安心して頂いている。	○	買い物に行くときは、事務局でお預かり金を受け取り、ご利用者様にお金を所持して頂き、職員は見当たりで手を出さないようにし、買い物を楽しんで頂き、自分のお金である事を認識し安心出来るよう支援している
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望される時は、すぐに外へ出るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度のレクリエーションで、普段行けない所に行くようにしたり、ご家族の面会時にもご本人の行きたい所に外出して頂けるよう家族にも協力を得て支援している。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の拒否も多く、ご本人自らが電話をする事は難しく、ご家族からの電話については、ご本人と代わり話しをして頂いている。手紙についても、こちらから一方的に出している事も多く返事が来ない。	○	ご家族の気持ちも配慮しつつ、ご本人とご家族の電話や手紙のやり取りが出来るような関係を作っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時、一緒にお茶を飲みながら談話され、和やかな雰囲気である為、気軽に訪問して頂けるよう工夫している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、危険性がある時、やむおえない状況の時にあって、どうしてもよいか考えさせられる時がある。	○	車椅子からのズレ落ち、急に立ち上がる行為など、何度も話し合いの場を持っているが、改善されない事にどうしたら良いか、取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の玄関が自動ドアになっており鍵をかけない事については、不可能である。	○	一日中鍵をかけず、職員が厳重に見守り強化し鍵を解錠し、玄関のドアを開けっぱなしにする時間を作るようにし、利用者に窮屈な思いをさせないよう努力している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間にベッドからの転落をされるご利用者様は、フロア内までベッドを移動し見守りを行っている。ご本人のプライバシーに配慮出来ていないが、安全を優先している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤を飲み物と思い、飲まれる事もある。消毒液・薬類・刃物等はスタッフルーム・脱衣場で管理し、必要に応じ出すようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の為、勉強会や防災訓練により知識を学んでいる。事故が起きた時、事故報告書ヒヤリハットの報告について、フロア内全職員で今後の改善策を考えてから提出している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設で勉強会が開催されており、全職員が応急手当を行えるようにしている。又、救変事の緊急連絡網についても訓練している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員のみでは災害対策について訓練しているが、地域の方々とは行われていない。	○	特に夜間は職員も一人の為、地域の人々に協力を得られるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者様に起こり得るリスクについては、ご家族様と十分に話し合っていますが、ご本人にとって抑圧感のない暮らしになっていないか、今後見直していきたい。	○	ご利用者様の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由を支援していきたいが、ご家族の納得と理解も得ていきたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご利用者様の体調の変化や異変の発見のために、普段の様子を良く観察している。いつもと違う様子があるときは、少しの事でもすぐに看護しに相談し、早期対応している。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の薬の目的・用法・用量について、全職員理解出来るよう申し送り、処方箋の確認を随時行っている。服薬の副作用がある時は、すぐに医師へ報告している。		
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為、毎日のリハビリ体操・十分な飲み水を摂取して頂いている。又、一人ひとりの自然排便が出来る飲み物、食物も把握するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの有する力を活かしながら、口腔内の清潔を保持できるように支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量・水分飲水量を記録している事で、水分不足などを把握し、水分不足が起こらないよう観察している。ご利用者様が必要な食事・水分が取れるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	季節や地域で流行している感染症の情報を集め、予防や対応について施設全体で実行している。		
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生活の場としての台所、調理用具などの消毒・清掃をこまめに行っている。食材については、毎日新鮮であるかの確認をし、調理している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般家庭と同じように、玄関前にはプランターで季節の花を咲かせ、利用者や家族の方々に親しみやすく、安心して出入りが出来るように工夫している。	○	近隣の方々にも、気軽に立ち寄って頂けるよう建物周囲の工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については、生活感を取り入れ、花・写真などを置き工夫している。	○	施設の構造がフロアになっている為、冬にコタツを配置することが出来ない。もう少し季節感を取り入れて居心地良く過ごせるよう工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、ご利用者様同士で過ごしやすいようにソファやテーブルの配置場所に工夫している。	○	共用空間の中で独りになる方はあまりいない。独りになりたい時は、居室に戻られる事が多い。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様や家族と相談し、使い慣れたも のや好みの物を持って来て頂き、ご本人様が居心 地良く過ごせるように支援している。		
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	気になる臭いがある時は、こまめに換気をしてい る。その都度、ご利用者様一人ひとりに換気する 事を説明し、温度調節についても外気温と大きな 差がないよう配慮している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	フロアには、手摺が設置されているが居室内には 手摺がない為、ふらつきのある方には不安を感じ る方もいる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	ご利用者様の認識間違いや判断ミスについて、職 員のミスで起きている事を説明し、ご利用者様の 混乱を招かないよう支援している。その後、環境 面での改善策を職員で話し合いをし、工夫するよ うにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターで花を育てたり、洗濯物 干しが出来るようにしている。天気がよい時は、 外で洗濯物を干したりお茶飲みをする事もある。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者様が家庭的な環境で共同生活を送れるよう、食事・入浴・排泄等の介助を24時間体制で見守ります。また、認知症状の進行を和らげるため、料理・清掃・洗濯等をできるだけご本人が行うよう支援します。